

オオカミは悪者なのか
 —日本語中級クラスで書き換え絵本を通して多様な視点を学ぶ試み
 Learning Diverse Point of View Using Picture Books in Japanese Language Course

田村芽, ペンシルベニア大学
 Megumu Tamura, University of Pennsylvania

1. はじめに

国際化が進む近年、多様性を受け入れ、尊重し、生かしていくことは言語教育を含めた様々な分野で必要不可欠となっている。多様性を尊重した学習環境を作ることは、学習者が、それぞれの持つ個性を認識し、受け入れ、全員が平等に、尊重を持って扱われる環境作りへの手助けとなる (Sanger & Gleason, 2020; Koss, 2015)。しかしながら、学習者を含む多くの人々が常にさらされている様々な偏見や差別や他の権利の侵害といった重要な問題は、外国語学習の場において十分に扱われていない傾向があり (Kubota et al., 2003)、人々の実生活に直接根ざした生教材を通し、内容と描かれ方を学習することで、その人々の現実の世界や考え方を学ぶことの重要性が唱えられている (Konoeda, 2020)。多様性を題材としたメディアは近年増えてきているが、その一つである絵本は文章の明確さ、内容のわかりやすさ、そして挿絵といった特徴から外国語学習に適していると言える。本試みではその絵本の特徴に焦点を当て、中級日本語クラスにおいて絵本を通して多様な視点を学ぶ試みとして実践を行った。本報告では「三びきのコブタ」の書き換え絵本を使用し、言語習得だけではなく、ディスカッションなどを通して多様な視点をどのように学べるか、また日本語学習の教材としての絵本のさらなる可能性と課題についても考察する。

2. 教材としての絵本と多角的な視点から読む利点

2.1 絵本と外国語学習、高等教育

主に幼い子供向けに書かれているものが多い絵本だが、外国語学習、そして高等教育において教材として使用する利点は多くの研究で指摘されている。Ho (2000) は、子供向けに書かれた絵本は自然な文章で書かれており、内容がわかりやすく、挿絵が内容理解の手助けとなるという特徴から外国語学習に適していると述べている。絵本を読むことで異文化への感受性を学び、人間の行動の本質を見極める機会となり、批判的思考とリテラシーを育むという点から外国語学習に適しているとも指摘されている (Kochiyama, 2015)。また、絵本には「教え」や「気づき」が含まれているものが多く、読者の年齢に関係なくその内面に質的な変化を起こさせ、広い視野と共感する心を持つことの手助けにつながるとされている (白須, 2004; Ghosn, 2002)。さらに、文章を読む前に絵にフォーカスすることで、内容や作者の伝えたいこと、意味などについて深く考えることにつながるという報告 (Konoeda, 2020) もあり、絵本を教材として使用することで、絵本の特徴の一つである絵を通して理解を深め、言語学習につながるという利点があると考えられる。

2.2 多角的な視点から読む

様々なメディアを多角的な視点から読む利点についても多くの研究で報告されている。荒井 (2013) は、多様な視点から読み、物事を様々な目線から見、考えることによって、偏った思考を避け、チャレンジに積極的に取り組み、様々な角度から解決法を導き出す助けとなるとしており、また、イメージ豊かな読みが可能となることも指摘している。物語を様々な目線から読むことによって視点の多様性に気づき、物事の曖昧さや複数の解釈の仕方の重要性について経験することができることも報告されている (Pantaleo and Sipe, 2012)。また、Lysaker and Sedberry (2015) は、学習者は、読んだ物語を再話する際に登場人物の心の内などを描写する場合、どの目線からその物語を語るのが最良かを考え、さらに自身のモラルスタンスを明確にすることが見られると報告している。そしてその際に、自分がその登場人物であった場合を想定し、同じような状況下でどのように行動するかを考えるため、それが実生活に通じる学びにつながるとしている。また、クリティカルリテラシーの点からも、多角的な視点から読むことで書かれていることだけではなく、著者や作者がどうして特定のトピックや視点で書くことを選んだのか、内容にどのアイデアを入れ、どのアイデアは入れないことにしたのかなどについても思考する機会となるため (McLaughlin and DeVogd, 2004)、批判的思考を養う手助けともなる。

絵本を高等教育の外国語学習で学ぶための教材として使用した研究は見られるが、その報告は少なく、特に絵本を多角的な視点で読むことの利点についてはさらなる検証が必要である。そこで、本試みでは中級日本語コースにおいて「三びきのコブタ」の書き換え絵本を使用し、言語習得だけではなく、物語を多様な視点から読むことによってステレオタイプや偏見、また多様な視点で読むことの意味についても考える場を提供した。そこでは「三びきのコブタ」の原作と二つの書き換え絵本を読み比べ、主題や描かれ方や視点変換の効果などについて、内容や挿絵、そして文章を通してどのように読み取れるか、ディスカッションを行った。以下に多様な視点を学ぶことを目的としたユニットで絵本を使用した実践を紹介し、日本語学習の教材としての絵本のさらなる可能性と課題についても検討する。

3. 実践内容

3.1 コース概要

2021年春学期に米国東海岸の私立大学で日本語中級を履修した計11人のコースで行った。リモート形式だったため、週に3回約60分の同期クラスを行い、週に1回のクラス時間は自習のアクティビティ、もしくはグループワークを課した。中級の日本語教科書5課を終えた後に絵本ユニットを作り、5日間を使って行った。

3.2 絵本ユニット

絵本ユニットの目的は以下である。

- 様々な視点で書かれた「三びきのコブタ」を通して多様な見方を学ぶ。

- 内容を理解し、あらすじや内容の違い、絵の効果などを日本語で説明できるようになる。
- 意見交換を通して、多様な考え方を学ぶ。

これらの目的から、言語習得だけではなく、絵本の主題やキャラクターの描かれ方、視点変換の効果などについて、主にディスカッションを通して学ぶ機会とした。

使用教材は、原作の「三びきのコブタ」はストーリーの復習として **youtube** にあるものを使用し、書き換え絵本は以下の二冊と、それぞれの英語の原作を使用した。

『三びきのコブタのほんとうの話』（Scieszka, 1989, 訳 いちくまさちこ）

『3びきのかわいいオオカミ』（Trivizas, 1993, 訳 こだまともこ）

「三びきのコブタ」の原作は学習者全員が知っており、あらすじがわかりやすく、書き換え絵本がいくつか出ていて視点の比較ができる点、そして二冊とも長すぎないという点でこれらの絵本を選んだ。石原（2008）は、「三びきのコブタ」や他のおとぎ話ではオオカミがたいてい悪者として登場するが、それは被害者（コブタ、等）の事情からのみ語られ、読まれているからであり、現代の絵本ではオオカミ＝危険な悪者という既成の概念を覆そうとする動きがあるとしている。オオカミ＝悪者というイメージの変容を題材とした絵本は日本語も含めて何冊か出版されているが、本実践では「三びきのコブタ」のストーリーと比較ができるという理由でこの二冊を用い、以下の流れで授業を行った。絵本ユニットの最後には学習者アンケートを行った。

表 1 絵本ユニットの流れ

| | 内容 |
|------|---|
| 1 日目 | 予習 <ul style="list-style-type: none"> • 原作「三びきのコブタ」のあらすじ復習 (youtube)、予習プリント • 『三びきのコブタのほんとうの話』の文字なし版、予習プリント 授業 <ul style="list-style-type: none"> • ユニットの目的と流れ説明 • 原作のあらすじ説明、主題、キャラクターの描かれ方など • 『三びきのコブタのほんとうの話』の文字無し版で気が付いたこと、主題、視点、興味を持った絵 |
| 2 日目 | 予習 <ul style="list-style-type: none"> • 『三びきのコブタのほんとうの話』を読む（朗読音声と単語リスト）、予習プリント 授業 <ul style="list-style-type: none"> • あらすじ説明 • ディスカッション：主題、原作との違い（登場するキャラクターの描かれ方や特徴、内容とその他）、疑問に思った点 • ディスカッション：コブタとオオカミとどちらの話に信じるか、視点が変わることの効果 |
| 3 日目 | 予習 <ul style="list-style-type: none"> • 『3びきのかわいいオオカミ』を読む（朗読音声と単語リスト）、予習プリント |

| | |
|------|--|
| | 授業 <ul style="list-style-type: none"> ・ あらすじ説明 ・ ディスカッション：原作と『三びきのコブタのほんとうの話』との相違点、ブタの目的、疑問に思った点 |
| 4 日目 | グループワーク：両方の絵本の英語と日本語の比較（グループで分析してレポートを Canvas に提出） |
| 5 日目 | 授業：まとめとディスカッション <ul style="list-style-type: none"> ・ グループワークで出た比較ポイント ・ このユニットから学んだこと（視点の変換、絵、訳の違い、生活で活かせること など） |

3.2 『三びきのコブタのほんとうの話』

『三びきのコブタのほんとうの話』は、オオカミが三匹のコブタの話の中で本当に起こったことを「自分しか知らない真実」として語っている。オオカミは、病気の祖母のためにケーキを焼くために砂糖を借りにブタの家に行ったが、ブタに不親切にされたこと、風邪気味だったことなどを理由にブタの家を壊すに至り、それをメディアが脚色して報道したために自分は悪者に仕立て上げられたのだと語る。

実践の 1、2 日目には、原作の「三びきのコブタ」のあらすじを復習し、『三びきのコブタのほんとうの話』の文章を消したもの、文章も入れたものを順に読み、主題、視点、描かれ方などについてディスカッションを行った。まず文章を消した絵本で、絵から気づくことについて話し合い分析では、全体的に絵が暗く、オオカミの悲しい気持ちを表していることや、ネクタイや眼鏡をかけているオオカミの外見から、真面目で落ち着いた優しい性格のように感じられ、真面目な人はきちんとした格好をしているというステレオタイプが見られるという声があった。また、ブタがはっきり描かれている部分がこの本の中に二回しか登場せず、その描写がととてもいじわるそうで、オオカミと対照的にブタの印象を悪くするためにそう描かれていると分析していた。絵本の最後にオオカミが刑務所にいることがわかるが、その姿で刑務所に長くいることが読み取れ、また、刑務官がブタなのはアメリカでは警察が「pig」と呼ばれていることと関係がありそうだという考えが出ていた。絵のみから解釈すると、どちらが悪いのか、「本当の話」はわからないという声が多かった。

次に文章を読み、原作と比較をしたところ、オオカミに名前がある点や服装や眼鏡をかけている点などから人間的に描かれていること、病気の祖母にケーキを作ったり、食べ物が無駄にしたくないと述べている点、「ブタくん」「いるのかい？」などの言葉遣いから、オオカミは本当はやさしいという印象を与えると分析していた。また、オオカミは常に丁寧にブタにお願いをするが、ブタはいつも不親切で態度が悪く、その言葉遣いとブタの描写からもブタに対する悪い印象を植え付けようとしているという意見があった。この絵本を読んで疑問に思った点については、オオカミはどのようにしてブタから砂糖を借りたのかという点が多く、一般的に悪者とされているオオカミがブタの近くに住んでいるのも疑問

だという指摘が出ていた。絵のみの印象を話し合った後に文章を読むことで、細かい意図や心理描写、やり取りの中の言葉遣いとその印象などに注目し、読みとり、分析することにつながったと言える。

これらの分析から、オオカミとブタのどちらが悪いと思うかを小さいグループに分け、話し合った。テキストを読む前に絵だけの解釈では、どちらかはまだわからないという学生が多かったが、読んだ後ではオオカミが言っていることの不自然さを指摘する声が多く、全てのグループがオオカミが悪いという結論となった。その理由としては、コブタに砂糖を借りるのが不自然な点、「正真正銘」や「名誉にかけて誓う」などの言い方をする人は信用できないという点が挙げられていた。さらに、服装などのステレオタイプの描写と、オオカミの優しさを強調した描写、それに対するブタの描かれ方が印象操作的だという分析があり、絵と文章の両方からこのような分析に至ったことがわかる。また、どのように描かれていても偏見はあるため真実はわかりにくいという指摘があった。誰の視点で書かれているかによって絵の描き方、ストーリーライン、言葉遣い、などが変わるため、真実を知るにはやはり様々な視点から見るのが大切だという結論となった。

3.3 『3びきのかわいいオオカミ』

この絵本ではブタとオオカミの立場が入れ替わっており、三びきのオオカミの兄弟が協力してレンガやコンクリート、鉄などの頑丈な家を作っていくが、その度にブタに壊されてしまう。最終的にオオカミが考え付いた材料で家を作ると、それがブタの気持ちを変え、最後は仲良くなるという話である。

『三びきのコブタのほんとうの話』との比較では、この本は第三者の視点で描かれており、『三びきのコブタのほんとうの話』のようにどちらが正しくてどちらが悪いのかという点が目的ではないと分析しており、視点が変わることで、主題や作者が伝えたいことも変わるという意見にまとまった。また、オオカミがかわいく描かれていることでオオカミは悪者だというステレオタイプを壊す効果があるという指摘もあった。そして、『三びきのコブタのほんとうの話』では登場しなかったカンガルーやサイなど他のキャラクターが登場していることで、より広い世界に住んでいるように感じられるという意見があり、一冊目の絵本の閉鎖的なコミュニティで起こった出来事という印象との比較が出ていた。この絵本を読んだ際の疑問点として一番多かったのは、「ブタの目的は何か」という点で、それに対しては、ブタが羨ましくて友達になりたいが、羨ましすぎて友達になれないのではないかと、という人間にも見られる点が理由として多くあげられ、友達になりたいのであれば暴力やいじわるは逆効果だという結論となった。また、『三びきのコブタのほんとうの話』と違い、この絵本では誰も死ななかつた点、ハッピーエンドである点、オオカミがかわいく、礼儀正しく、友達も多いことから、オオカミ=悪者というステレオタイプがこの話には出てこない点をあげ、暴力と差別、ステレオタイプがなければ友達が作りやすくなるという結論に至った。そして、理解できない人が周りにいた際には、その人の目的や理由を学ぶことが大切で、敵を作らないことが大切という結論でまとまった。

3.4 英語原作と日本語訳の比較

二冊の比較分析の後、それぞれの英語と日本語の比較を行い、そこから読み取れることを話し合った。まず小さいグループで分析したものをレポートにして提出し、その中で挙げられた点を数点取り上げて授業内でディスカッションを行った。成岡（2013）は、絵本の翻訳にはもう一方の言語を使って同じ物語を新たに作り上げるような性質があり、その言語に自然な表現で翻訳されていることから、文化の違いなど、学べる事が多いとしている。異なった言語での物語描写には、以下の点に違いが多く見られ、比較することによって訳者の意図などが明確になるとされている（古市と西崎, 2009）。

- 代名詞や呼び方
- モードや動詞の形の違いオノマトペ
- 文化や習慣などの違いによるもの説明が足されている/なくなっている。
- リズム
- 終助詞
- フォント など

グループワークで出た様々な比較で出た例として、まずオノマトペがあった。『3びきのかわいいオオカミ』でオオカミがコンクリートで作った家をブタがダイナマイトで破壊するシーンで、英語では太字で“the house blew up”と書かれているのに対し、日本では「どっかーんとふっとんでしまいました」と訳されている。オノマトペが使われていることで大きな爆発だというイメージが浮かび、英語ではとても短くシンプルな文字で太字で書かれているため、爆発の重さ、状態の深刻さが伝わると分析していた。

また、『三びきのコブタのほんとうの話』で、オオカミが最初のブタの家に砂糖をもらいに行くシーンでは、英語ではブタを he と呼んでいる部分で、日本語では「そいつ」や「やつ」が使われている点も挙げられていた。英語に比べ、日本語は代名詞が多く「あいつ」「あなた」「やつ」など、丁寧度によって話している人の気持ちが分かるため、「そいつ」「やつ」を使うことによってオオカミの失礼な性格またはバカにしている気持ちを表しているという解釈を挙げていた。

このように、言語による描写の違いを比較することで学べることは多く、今後も様々な形で広げられると考えられる。

3.5 絵本ユニットから学んだこと、アンケート結果

絵本ユニットのまとめとして、原作と絵本二冊を読んで学んだこと、そして実生活でどんなことを活かせるかを話し合った。学習者は、絵本からは、絵と文章の大切さ、複数の絵本と、訳を比べることの利点が挙げられ、また新聞など偏った報道がされがちなメディアがあるが、絵本の場合はニュートラルに考えられると言う声もあった。また、このユニットを通して、見た目では判断できないこと、様々な視点を持つことの大切さ、ステレオタイプやどちらが正しいかという基準で考えないということ学び、実生活で活かせるという意見でまとまった。原作、そして二冊の絵本を通して異なった視点から読み比べることが可能となり、実際

の生活の中での自らの思考と行動に移すことができることを学べたという点で、このユニットの目的は達成できた面が大きいと言える。

学期末に行ったアンケートでも、言語習得の他にも、多角的な視点から物事を見る重要性について学ぶいい機会になったという意見が大多数であった。

表2 アンケート結果まとめ

| 絵本ユニットは・・・ | 平均 |
|---|----------|
| 日本語能力の向上に役に立った（あらすじや違いの説明、絵の効果、意見を述べる など） | 4.14 / 5 |
| 物事を多角的な視点から見るいい機会になった | 3.42 / 5 |
| 実生活の中で多様な視点を持つことの重要性を学ぶ助けとなった | 3.42 / 5 |

自由回答記述

- I like the fact that we read so many different versions of the classic story.
- I enjoyed the fact that we used a well-known fairytale as our basis because it made understanding the content easier and more enjoyable.
- I thought it was fun to use Japanese to read native content, even if it was for kids. I also enjoyed the translation groupwork a lot.
- It would be cool if there were more units like that mixed in throughout the semester, just to mix up the format of the class every now and then.
- I wish we focused more on style of speech in books (such as different endings to sentences).

4. 絵本を通して多様な視点を学ぶ意義

絵本を通して多様な視点を学ぶ意義としては、絵のみで読むことで気づく点、そして文章を読むことで異なった理解になることもあり、その説明やディスカッションを通して言語学習に有益であると同時に、批判的思考を養う教材として絵本は効果的だという点が挙げられる。また、学習者が指摘していたように、新聞など偏った見解が見られがちなメディアと比べると、絵本を使用することにより他の様々な問題もニュートラルな視点で読み、考えられる。そして、異文化絵本や絵本の翻訳を通して異なった文化や社会について学び、また多様な視点で学ぶこともできるため、人権問題などの様々なダイバーシティとインクルージョンのトピックを学ぶためにも、絵本は有効であると考えられる。コース内の位置づけや目的によって使用する絵本を吟味する必要はあるが、他のメディアとの併用もすることで、今後も様々なことを学ぶ教材の一つとしての絵本活用が可能になるだろう。

参考文献

- 荒井英樹 (2012) 「文学的文章教材における教材研究の視点—『視点論』を中心に—」 『創大教育研究』 22, 123-134 <https://core.ac.uk/download/pdf/230411192.pdf> (2021年5月1日)
- 石原敏子 (2008) 「『悪者おおかみ』の書き換え五題：『さんびきのこぶた』変装絵本に見える現代的効果」 『関西大学外国語教育研究』 15, 1-12 関西大学

- https://www.kansai-u.ac.jp/fl/publication/pdf_education/15/01_ishihara_01.pdf (2021年5月1日)
- 白須康子 (2004) 「中学校の英語教育における絵本・児童文学の活用」『人文研究』 154, 83-111 <http://human.kanagawa-u.ac.jp/gakkai/publ/pdf/no154/15405.pdf> (2021年5月1日)
- 成岡恵子 (2013) 「絵本における語り手の視点：英語絵本とその日本語翻訳の質的分析」『東邦法学』 57 (1) 33-57 <https://ci.nii.ac.jp/naid/120005317833> (2021年5月1日)
- 古市久子、西崎有多子 (2009) 「絵本の翻訳に何が影響しているか：日英の絵本を通して」『東邦学誌』 38 (1) 27-52 <https://aichi-toho.repo.nii.ac.jp> (2021年5月1日)
- Ghosn, I. K. (2002). Four Good Reasons to Use Literature in Primary School ELT. *ELTJournal*. 56 (2), 172-179.
- Ho, L. (2000). Children's Literature in Adult Education. *Children's Literature in Education*. 31 (4), 259-271.
- Kochiyama, A. (2015). Using Picture Books to Enhance Motivation and Language Learning of Remedial EFL Learners. *Indonesian EFL Journal*, 1 (1), 10-16.
- Konoeda, K. (2020). 絵本を通して沖縄を見る：中級日本語コースで「日本」の多様性を考える試み[Okinawa through picture books: An attempt to explore Japan's diversity in an intermediate Japanese language course]. *The Proceedings for the 25th Princeton Japanese Pedagogy Forum*. Retrieved October 2020 from <https://pjpj.princeton.edu/25th-princeton-japanese-pedagogy-forum>
- Koss, M. D. (2015). Diversity in contemporary picturebooks: A content analysis, *Journal of Children's Literature*, 41 (1) pp.32-42.
- Kubota, R., Austin, T., Saito-Abbott, Y. (2003). Diversity and inclusion of sociopolitical issues in foreign language classrooms: An exploratory survey. *Foreign Language Annals*, 36(1), 12–24. <https://doi.org/10.1111/j.1944-9720.2003.tb01928.x>
- McLaughlin, M., & DeVoogd, G. (2004). Critical Literacy as Comprehension: Expanding Reader Response. *Journal of Adolescent & Adult Literacy*, 48(1), 52–62.
- Lysaker, J., Sedberry, T. (2015) Reading difference: picture book retellings as contexts for exploring personal meanings of race and culture *Literacy* volume 49 issue 2 p.105-111
- Pantaleo, S., Sipe, Lawrence R. (2012) Diverse Narrative Structures in Contemporary Picturebooks: Opportunities for Children's Meaning-Making. *Journal of Children's Literature*, v38 n1 p6-15 Spr
- Sanger, C. S., Gleason, N. W. (2020). *Diversity and inclusion in global higher education: Lessons from across asia*. London: Palgrave Macmillan.
- 絵本：
- Scieszka, J. & Smith, L. (Illustrator). (1991). *The True Story of the 3 Little Pigs!* (S. Ishikuma, Trans.). New York: Puffin Books (Original work published 1989)
- Trivizas, E. & Oxenbury, H. (Illustrator). (1994). *The Three Little Wolves and the Big Bad Pig* (T. Kodama, Trans.). New York: Margaret K. McElderry Books (Original work published 1993)